

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>①漢字の定着に個人差がある。</p> <p>②文章の読み取り、問題解決に必要な部分の読み取りに差がある。</p> <p>③書く力はあるが作文用紙の使い方に課題がある。</p>	<p>①日頃の宿題やミニテスト等を継続し、定着を図る。</p> <p>②文章の中で重要な語や文、キーワード等に印をつける。問題解決に必要な情報を集め、取捨選択することを繰り返し取り組ませる。</p> <p>③作文の書き方の指導の際に事前に構成メモを活用させるとともに、作文を書く時間の前に作文用紙の使い方を確認する。</p>	<p>①どの教科においても、既習した漢字を使用する児童が増えてきている。</p> <p>②丁寧に指導していくことで読み取る力は着実に身に付いてきている。</p> <p>③今後わくわく作文を中心に児童は、筋道を立てて文章を書けるようになってきている。</p>
社会	<p>①地図帳や地球儀、各種資料、調査活動を通して情報を適切に調べ、それに基づいて考えさせたり、まとめさせたりする指導が不十分である。</p> <p>②課題から捉えたことや考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする活動の設定が不十分である。</p>	<p>①ICT機器を活用して、課題解決に有効な資料に触れられる機会を多く設定する。また、自力解決の活動に入る前に、資料を読み取る視点を明確に示したり、具体的な着眼点を与えたりすることで、自分で必要な資料を取捨選択しながら学習を進めていけるようにする。</p> <p>②自分がもった考えをペア・グループで伝え合う活動を多く設定し、数多く経験を積ませることで自分の言葉で表現する力を育む。</p> <p>②一つの課題に対し、学級全体の場で意見を述べ合う活動を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりしていけるようにする。</p>	<p>①ICT機器の活用により、児童が社会的事象に気付くことができるようになった。</p> <p>②意図的な対話をすることで、児童の思考力・表現力の向上が見られた。</p>
算数	<p>①「数学的な見方・考え方」を働かせて自分の考えを書いたり伝え合ったりすることが不十分である。</p> <p>②学習内容の定着に個人差がある。</p>	<p>①問題解決の過程で見やすく表現できるように板書を工夫したり、表現する方法を提示したりして自力解決できるように支援する。</p> <p>①友達のと自分の考えを比べたり、自分の考えを深めたりする時間や、学習の振り返りの時間を十分に確保する。</p> <p>②文章による振り返りにより、自分の学びを自覚するとともに、アウトプットとして類似問題に取り組みせ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。</p>	<p>①個別指導で既習事項と関連させた結果、多くの児童が自分の考えを文章化できるようになってきた。</p> <p>②振り返りの時間を十分に確保することで、児童の基礎的な学力の定着につながっている。</p>
理科	<p>○自分の考えが言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していき、それによって様々な考え方を結び付けられるようにする力が不十分である。</p>	<p>○問題解決の過程で、まず自分の考えをもつ時間をしっかりと確保し、ノートに表現させる。また、友達と対話し、意見を交換したり、根拠を基に議論したりして、自分の考えをより妥当なものとして作り出せるようにする。</p>	<p>○既習事項や生活体験を学級全体で話し合い、想起することで、予想を立てる力が身に付いている。</p>

生活	<p>①通学路や親とよく行く店など、行動範囲が限られている児童が多い。地域のさまざまな「人、もの、こと」と関わる経験が少なくなっている。</p> <p>②児童が自分の思いや願いをもって体験したり、表現したりする授業づくりが課題である。</p>	<p>①繰り返し地域に出たり、地域の人々に関わったりする活動を多く設定する。児童が地域の「人、もの、こと」と関わっていることに気付き、愛着をもつことのできる单元づくりをする。</p> <p>②めあての設定、振り返りを重視することで、自分の思いや願いをもつことができるようにする。</p>	<p>①児童が地域に愛着をもち、地域の中で新たな気付きを見つけることができる児童が増えている。</p>
音楽	<p>○知識や技能に対して興味をもつ児童はいるが、自分の思いを表現することにつながることに苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>○発言や表現だけではなくワークシートを使い、自分の思いを伝えられる学習内容を工夫することにより、一人一人の思いを見取ようにする。</p>	<p>○教科書や、私生活の体験をもとに想像させ取組により、書くのが苦手な児童にも自分の思いを伝えられるようになってきた。</p>
図画工作	<p>○描きたいものや自分の思いがよく表れるように工夫して表現する活動が不足している。</p>	<p>○作品作りをする際に、自分の表したいものについて振り返る時間や作品を見る人の視点で作品を振り返る時間を設ける。</p>	<p>○制作の途中で友達とお互いの作品について確認するようになっており、工夫した表現につながってきた。</p>
家庭	<p>○家庭状況が多様化していて生活経験に差があり、技能面での個人差が大きい。個別指導を必要としている児童がいる。</p>	<p>○技能の習熟の程度により、個別指導やグループ別指導を行うなど、学習形態の工夫をする。また、実物に触る機会を増やし、体験的な授業を行う。</p>	<p>○体験的な学習を通じて、児童はよりよい生活を営む大切さを実感してきている。</p>
体育	<p>○昨年度の体力テストの結果から投力に課題をもつ児童が多い。</p>	<p>○単元の学習だけではなく、準備運動でキャッチボールなどの投力の向上につながる時間を増やし、継続的に行う。</p>	<p>○正しい投げ方が身についてきた。</p>
外国語	<p>○すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童は多い。しかし、自分の気持ちを相手に伝えるように考えながら、コミュニケーションを図ろうとする児童は多くない。</p>	<p>○言語材料に十分に慣れ親しむ時間を設けた上で、ペアやグループで実際に英語を使用して、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を行う。その後は振り返りをし、学びを確かめる。</p>	<p>○各レッスンで学んだ表現方法をペアやグループで確かめ合うようになってきた。</p>